

---

# 転生後、バグ

八二一

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生後、バグ

### 【Nコード】

N8044L

### 【作者名】

ハニー

### 【あらすじ】

『転生』に対して『転生後』を描く。

「君の存在はバグだ」

突然俺の目の前に現れたジャージの男はいきなりそう言った。バグ？なんの事だ？

「なんの事かわかっていない……か。……うわあ、重症だな。いや、それも予定調和か」

男は戸惑う俺を置いて一人で話を進めていく。だから、なんの話だよ？

ジロリと男が俺を見る。怖くは無い。男の風貌がそうさせるのだろうか。男は中肉中背よりも少し太り気味の体型だ。それに黒いジャージを着ている。顔は下の中位、眼鏡をかけている。冴えない男だというのが俺の正直な感想だ。

それに俺には力が有る。何物にも負けない無敵の力だ。チートと言っても良いかもしれない。

この力は暫く前に偶然身につけた。神が間違えて俺を死なせてしまったお詫びだと言ってこの力をくれたのだ。おまけに不老不死に女にモテまくる運命もつけてくれた。

しかし蘇生はできなかつた。死んでしまった肉体に戻るには危険だというので、別世界に転生することになった。転生先は俺の好きなアニメの世界だ。

そこで無敵の力で暴れまわり、美少女のヒロイン達にモテまくって

ハーレムを形成していたのだが、そんな中この男が突然現れたのだ。  
った。

「俺がバグだと？なんの事が知らんがテメー、ナメてんのか！？」  
凄みを効かせて威嚇する。これで大抵の奴は逃げ出す。

「ナメてはいないよ。むしろ君が僕をナメているんじゃないか？」  
男は俺の威嚇にも全く動じていない様子だった。むしろ俺にイラついている感じだ。  
喧嘩でも売ってくるのだろうか。だがそうなっても俺には絶対に負けない自身がある。神は俺に高い身体能力も与えたのだ。

「フザケンな！オラツ！！」

拳を固めて男の顔を狙って殴りつける。普通の人間なら絶対に避けられないスピードだし、当たれば死ぬかもしれないスピードだ。  
だが男は避けようという素振りも見せない。　　バカめ！

しかし次の瞬間、予想外の事が起こった。俺の腕が肩からあり得ない方向に曲がり、男を避けたのだ。俺は久しぶりに感じる痛さに悶絶する。

「うぎゃあああああ！い、痛てえエエえ……　　！！」

「よし、まずはこんなもんか」

地面の上で悶える俺を見下しながら男は言った。

男は俺を無理矢理立たせて、攻撃してきた。何をされているのか全くわからない。あのアニメにこんな場面あったか？

一頻り攻撃すると男は俺に唾を吐いた。不老不死の身体だから核ミサイルが直撃しても死ぬことは無い。

しかし今はそれが恨めしい。……さっきのリンチのような壮絶な攻撃を受けても意識を失う事すらできなかった。

「よし、「チートを後悔させる事」に成功だな」

男は未だ訳のわからんことを言っている……。なんなんだ一体……！？

「疑問に思ってるみたいだね。よし、教えてやるよ。最初にも言ったが、君はバグだ。気まぐれと言っても良いかもね。そして僕は君の……いや、君たちの創造者こと作者“ハニー”。君が死んで神にチート能力を貰うのも僕のシナリオだ。勿論、今の君の状況もだ。転生チート生活は楽しかったかい？でも、実感は無いか。全部君の一人語りのモノローグみたいな感じだし」

なんだ？創造者？じゃあ、あの神はなんだ？たんだ？俺にチート能力を与えて転生させたアイツは……？

「ああ、“神”か。アイツも僕の創ったキャラクターだよ。この“バグ”って小説の只の登場人物さ。いや登場はしてないか……じゃ

あ只の“設定”だな」

小説？設定？

何を言ってるんだ？こんなの……まるで、まるで……

「『フィクションじゃないか！』って？そうさ、フィクションだよ。それも僕の考えた性質タチの悪い……ね。何が性質タチ悪いって、この“バグ”って小説のラストなんだよね。まあスグに分かるから、楽しみにしててよ」

「なん…だと？ま、待て！待ってくれ……なんだ、これは！？身体が…」

男がニヤリと嫌らしく笑うと、俺の身体をいくつもの黒い球が取り囲んだ。黒い球に触れた部分から俺の身体が分解するように消えていく……。

「う、わぁアあ……や、やめろオオオ！」

俺の身体が消えていく間、男はずっとソレを見ていた。ニヤニヤと嫌らしく笑いながら。

そうか。そうだよな。消えていく間、俺は理解した。転生やチートなんて甘い話がある筈が無い……。常識を逸しすぎた力は世界というシステムからすればバグだ。バグはいつか消される。

もしも神に「転生させてやろう」と言われても信じてはいけない。神の上に世界の創造者がいる。神だってそいつの創造物だ。結局そいつのシナリオ通りに事が進んで、最後には……



(後書き)

いかがでしたでしょうか。

転生後、彼は幸せでした。しかしその幸せも紛い物、私の創作です。彼を転生させた神ですら私の創作です。

最近やたら多い『神様が間違っつて殺しちゃった(笑)』設定の作品に対してのアンチテーゼ。神だつて誰かの…いや作者である貴方の創作です。

転生なんて上手い話はありません。何処かで大きなしつぺ返しをくらう筈です。今回はそれが主人公の存在の消去だったのです。

昔テレビでやっていた『週刊ストーリーランド』の話を参考にしました。無情感たつぷりの救いの無い物語。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8044/>

---

転生後、バグ

2010年10月17日05時01分発行